

自ら考え判断し行動できる力を育みます

変化の激しいこれからの社会で必要となるのは、自己の能力や強みを発揮して社会に貢献し、充実感や達成感を味わう中で自己実現を手にすることであると考えます。そのために重要なのが自発的な思考判断と行動ができることです。中学校期においては、進路という自己実現に向けて、学校に貢献し、充実感と達成感を味わうべく、様々な教育活動において、自ら考え判断し行動できる力を育みます。

違いを理解し、他者と共生できる力を育みます

社会の変化に伴い、国家間や人間間のトラブルも多様化すると考えられます。そこで大切なのが、人間は個々に違いがあり、その違いがあるからこそトラブルが発生するのは当然であるという認識を持つことだと考えます。その上で違いを受け止めて、どうその違いと向き合えばトラブルが解決でき、他者と共生できる社会が実現するかを考えることです。様々な教育活動において、トラブルを解決するスキルを高めます。

挑戦し新たな価値を創造できる力を育みます

社会ニーズの変化により、これからは新たな価値の創造が求められます。そのためには、自分たちの思考の枠から出た、新たな価値の創造が必要です。だからこそ大切になるのは、これまで通りのやり方を踏襲するだけでなく、新たなやり方を生み出し挑戦することです。様々な教育活動において、これまでの価値を見直し、新たな挑戦によって新しい価値を創造できる力を育みます。

変えていくことを前提とし、トライアル&エラーにより、より質の高いものを目指しながら、今年度、これら3つの力を、様々な教育活動の中で育み高めていきます。

2021年度 谷汲中学校

学校経営ビジョン

未来社会を逞しく創造できる力を育む

自己実現

他者との共生

挑戦と創造

学び方改革の断行

- 教師による教えすぎの見直し。生徒に任せ、自分たちで考える場、判断する場を大切にする。
- 「分かる」から「分からない」を中心に据えた学びの構造化を図る。
- 自ら問いを立て、学びを創り出す学習を工夫する。
- ノートを使い方等を見直し、実態に応じたより主体的な家庭学習を定着させる。
- 異学年による「共同学習」を、工夫して展開する。
- 小学校との連携の強化を図る。

生徒指導の基盤となる学級経営の充実

- トラブルを共有し、共同で解決方法を見出す。
- 「自分から挨拶」と「大きな声で返事」を励行する。

自治活動の積極的支援

- 生徒の手による学校生活の徹底見直しを行う。
- 生徒企画行事の実施を検討する。
- 学校経営会議への生徒参加を実行する。

願う教師像

- 生徒たちの安心と安全を守り抜くため、危機管理意識を高め、正しい判断ができる資質と能力を備えた教職員
- 率先垂範により、目指す生徒像を自らの行動において示し、主体的に生徒たちや学校のために貢献できる、意識の高い教職員

願う保護者・地域像

- 家庭や地域を担う大切な存在として、願う生徒の姿を明確にもつとができる保護者・地域
- それぞれの役割を自覚し、学校も含めた協働の動きを創り出すことができる保護者・地域
- 学校を支える一番の応援団として、主体的に動きを創り出せる保護者・地域

①授業を見直します

- 課題を共有したら「後は自分たちで解決してごらん。」と生徒に任せ、教師は個別の支援に徹するくらいの大膽な授業改革を。
- 写すノートから、自ら創るノートへ。そのための板書の在り方を追求する。
- 学びにとって「分からないこと」は重要かつ必要不可欠。「分からない」を表面化させる授業改革を。いつまでも「分かる人」に頼らない。
- 追究過程で新たな問いを見出し、より深い追究へと学びを深化させる過程の工夫を行う。

②家庭学習を見直します

- 家庭学習も含めた「主体的な学び」を創造する。自らの実態に応じた適切な家庭学習の在り方を明確にする。(一律一斉からの脱却) そのために、授業ノートの在り方を見直す。

③その他の学びを見直します

- 異学年による学びを工夫し、学年を問わず共通の課題や関心に応じて学び合う環境を整備する。(総合的な学習の時間の見直し)
- 小学校との学びの連携を行う。中学生による小学校への出張授業の実施。(授業構想や教材の作成)
- 生徒の主体的活動の場の確保として、放課後活動の持ち方を見直す。全員部活加入を見直し、個々の興味関心に応じて、既存の部活動以外の活動ができるようにし、その時間と場所を提供する。

④意味・値打ちを問う指導を見直します

- 自身にとっての必然を問い直し、必要感をもって「先行挨拶」「返事」ができる姿を生み出し、谷汲中学校生徒の誇りとする。
- 学級における生徒間トラブルについては、終礼時に導き出した具体的な解決方法と経緯について報告し共通理解を図る。

⑤自治活動を見直します

- 生徒による「学校生活一斉点検」を実施するとともに、生徒の企画・立案・運営による、生徒行事を検討する。場合によっては実施まで。
- 職員の企画会議や学校運営協議会に生徒代表を加え、生徒目線での評価を求める。

⑥小中連携を一層強化します

- 各種行事だけでなく、教科等学習や教職員研修、PTA 活動等での連携の在り方を検討する。